

# 地域と農政を結ぶ

Vol.  
34

令和8年4月

- 令和8年度地方参事官室担当者をご紹介します
- お茶NEWS  
令和8年2月、稼げる未来の茶園セミナーを開催しました
- トピックス  
「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第12回選定)  
「ノウフク・アワード2025」優秀賞 受賞  
生産方式革新実施計画の認定  
「情報発信者の部屋」ホームページの紹介
- 生産現場での取組事例紹介  
お茶の未来をつくる、世界へ届ける  
経験とご縁がつないだ独立就農  
「みえるらべる」の取組
- 商業高校の取組を紹介します
- 第2回みどり戦略学生チャレンジ関東ブロック大会  
結果発表
- こどもたちの食生活を支えるこども食堂
- 統計の部屋  
「“白書の物差し”で見る農業の現状(静岡県)」の紹介  
令和7年産茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量
- しぞーかの特産品「内房たけのこ」

関東農政局 静岡県拠点 地方参事官室  
農林水産省

# 令和8年度 地方参事官室担当者 をご紹介します

1年間よろしくお願いいたします!



副地方参事官 石田 圭一  
地方参事官 河合 亮子  
総括農政推進官 高橋 和彦



企画担当

みなさんのところへお伺いします。

ぜひ、農政に関する **意見・要望・質問** をお聞かせください。



分析担当



中部・西部地域担当



東部・伊豆地域担当

➤ 表紙 コデマリ (JAとびあ浜松提供)

細長い枝に小さな毬(マリ)がついたように見えることから、その名がつけました。可愛らしい小さな白い花がいっぱいに咲きます。

静岡県湖西市は全国シェア80%を占める産地で、1月から4月上旬までの約3か月間出荷されています。



## 令和8年2月、稼げる未来の茶園セミナーを開催しました

関東農政局静岡県拠点と静岡県では、少ない労力で効率的に稼げる茶園を実現するための土台として「茶園の基盤整備」に焦点を当て、「稼げる未来の茶園セミナー」を共同開催しました。

本セミナーでは、小規模から大規模までの整備事例を分かりやすく説明するとともに、国・県の支援策や最新の研究動向を紹介しました。

### 茶園の整備を考える

※緑字は発表者

- 茶園の基盤整備  
静岡県 経済産業部 農地局 農地計画課
- 茶改植等の支援  
関東農政局 生産部 園芸特産課

### 事例の発表

- 玉川地区（小規模の基盤整備、静岡市）  
生産者
- 下泉原地区（中規模の基盤整備、川根本町）  
農事組合法人 川根美味しいたけ
- 東豊田池田地区（大規模の基盤整備、静岡市）  
静岡県中部農林事務所
- 中遠地区（小規模の基盤整備）  
静岡県中遠農林事務所

### 専門家が考える理想の茶園づくり

- 農研機構において近年育成した茶品種  
農研機構果樹茶業研究部門
- 大規模経営における効率的な茶栽培体系とセンシング技術  
静岡県農林技術研究所茶業研究センター



▲発表を行う生産者（上）、全体討論の様子（下）

市町やJA、茶業者等、県内外から幅広い方々の参加があり、「規模が異なる事例を聞いて参考になった」といった感想もいただきました。

静岡県拠点は、今後も茶業に携わる多くの方と共に、茶業の発展に貢献していきます。

## Check! セミナーの動画と資料が見られます

- 📺 動画 (YouTube)
- 📄 資料 (静岡県拠点HP)



取組事例は、  
今年3月  
5件  
追加

静岡県拠点HPでは、セミナーの動画以外にも、農林水産省の支援策や、生産者の取組事例を掲載しています。

### ⑬輸出拡大を目指す茶商の取組 【茗広茶業株式会社（静岡市）】

輸出

- 活用した事業  
静岡県内や県外に工場を構え、「茶」原料を主軸とした、食品に関わる事業を展開。加工卸売販売のほか事業者からの委託加工も行う。原料茶葉の主要仕入れ産地は、静岡、鹿児島や八女。製品の安全性確保には、社内に品質管理室を設置し、徹底した品質管理による取引先へのデータ提供とリスク管理を実施。
- 経営の概況  
製品の主な輸出先は、アジア（タイ・ベトナム・台湾）・オーストラリア・中近東（ドバイ、サウジアラビア）など。輸出相手国のニーズに応えるべく機械設備の導入及び各種認証（有機JAS・FSSC22000・ハラール等）を取得。
- 取組内容  
輸出相手国の規制やバイヤーが求める高い品質に対応するため、酸化防止、殺菌処理及び粉末製品の固形化防止等に適応した機器の導入に取組んだ。事業を活用して機器を導入したことにより、加熱水蒸気による耐熱性菌の殺菌、密着封入時の粉末の飛散軽減や賞味期限の更なる延長等が可能となり、従来より品質の高い製品を安定して供給できるようになった。また、流動層造粒機を導入したことで多様化する粉末茶に対するバイヤーの注文に対応することが可能となった。機器導入の取組は、各種認証の取得と併せて品質の向上、輸出事業拡大の取組に貢献している。



### 3. 大規模な基盤整備



県営事業として大規模な基盤整備を行います

- ・狭小で不整形、非効率ゆえに借り手が見つからない、まとまった範囲の茶園  
⇒ 地形を改変、新しい茶園に再整備（茶園のフルリノベーション）
- ・地域一帯、同じ水準で整備
- ・換地により、全ての圃場が農道に接した大区画化を実現
- ・農地所有者や地域との合意形成は、皆さんが納得できるまでじっくりと
- ・事業費や地元の負担は大 ※地元負担を軽減する事業や制度もあります

### 2 茶園の基盤整備

(3) 基盤整備に向けて

- 農協からの情報提供  
・茶園の「基盤整備」補助事業
- 中部農林事務所に相談  
・規模（事業面積）  
・時期  
・事業負担額
- 地権者への説明  
・農地の借入れのお願い  
・基盤整備の意向
- 農地の借入れ手続き  
・農地の借入れ手続きは  
農地中間管理機構を通じて

▲セミナー資料の抜粋  
静岡県農地計画課（上）、生産者（下）

## 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第12回選定)

「隠れ茶を守る会」代表 齋藤雅子さん(静岡市)  
静岡の誇り・日本の財産である「茶畑景観」を後世に!

農林水産省及び内閣官房は、農山漁村の地域資源を引き出し、地域の活性化等に取り組む優良事例を選定しています。このたび静岡県内から、「隠れ茶を守る会」代表の齋藤雅子さんが、関東農政局管内で独自の優れた取組として選ばれ、静岡県拠点にて選定証の授与を受けました。

齋藤さんは約30年前に梅ヶ島へ移住し、2009年に「隠れ茶を守る会」を立ち上げました。そして、美しい景観の中でのお茶体験、呼吸法、瞑想、散策などを行うお茶ツアーを実施し、茶畑の魅力を国内外に広めてきました。

また、ボランティアの輪を広げ、放棄茶園の再生面積を広げるとともに、大学でのワークショップなど、関係人口の増加にも努めてきました。さらに、商品開発にも取り組み、東京農業大学と協力し、「食べるお茶・発酵ほろに」を開発しました。

齋藤さんは、今後もメンバーや地域の茶農家等と共に、お茶の魅力発信と地域活性化に取り組んでいきます。



▲「隠れ茶を守る会」代表の齋藤雅子さん(中央)と生産者の皆さん



▲東京農業大学と協力して開発した「食べるお茶・発酵ほろに」

## 「ノウフク・アワード2025」優秀賞 受賞

特定非営利活動法人 にじのかけ橋(三島市)  
農福連携による多角的な事業展開

にじのかけ橋は、障がい者支援施設の運営などの事業を行う法人です。2017年に、三島市内の生産者から農作業支援依頼の相談があり、施設利用者を派遣したことで農福連携の取組が始まりました。その後、就労支援事業所「ミストラル」を設立し、三つの農業施設で農作業を行っています。

「すなあそびファーム」と名付けたハウスでは、車いす利用者も作業できる高床式砂栽培を用いて、葉物野菜を生産しています。また、「函南しいたけファーム」では菌床しいたけの栽培を行い、「うなぎ野菜ファーム」では、うなぎの残さを肥料にしています。このほか、園児や学生の収穫体験などを受け入れ、障がいの有無を越えた交流や食育の場を提供しています。

収穫した農産物は、道の駅や飲食店へ直売しています。規格外品は、同法人が運営する「にじかけカフェ」で活用し、しいたけドレッシング、スープなどの加工品としても販売しています。

このように農業経営から飲食事業、6次産業化まで多角的に展開し、利用者の活躍の場を広げて工賃を向上させ、商品開発を行う取組が評価され、優秀賞を受賞しました。



▲「すなあそびファーム」で大事に育てた農産物を笑顔で収穫する施設利用者の皆さん



▲「函南しいたけファーム」で収穫したしいたけは、JA等への出荷のほか、ポタージュスープ等に加工・販売しています

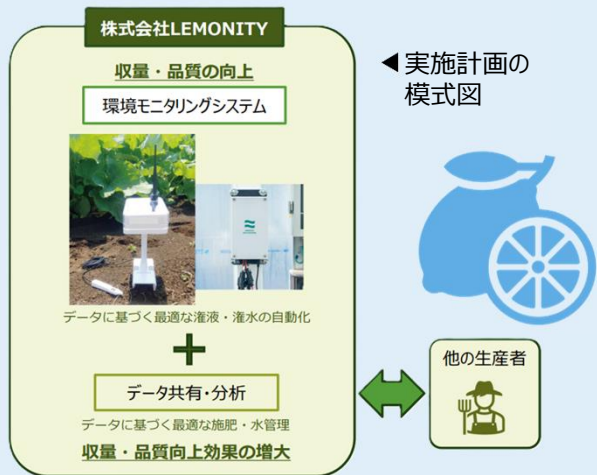
## スマート農業技術活用促進法に基づく生産方式革新実施計画の認定

### 株式会社LEMONITY

令和8年1月、株式会社LEMONITYが、静岡県内で初めて**生産方式革新実施計画**の認定を受けました。同社は農業法人、飲料水・食品製造事業者、食品商社の3者が共同で設立した会社で、磐田市を中心にレモンの産地拡大を進めています。

今回、環境モニタリングシステムを活用し、土壌の水分量などを分析する取組が認定されました。分析したデータは、他の生産者に共有するとともに、灌水灌液システムの設定に反映させることで、肥培管理に役立てます。

株式会社LEMONITYは、今後、補助事業等を活用しながら計画を実施し、将来的にはスマート農業による果実の自動収穫機の導入等も視野に入れています。



### 生産方式革新実施計画とは？

農林水産省では、農業者の減少等の農業を取り巻く環境の変化に対応して、農業の生産性の向上を図るため、スマート農業技術の活用と、これと併せて行う農産物の新たな生産の方式の導入に関する計画（**生産方式革新実施計画**）を認定しています。

#### 申請者

生産方式革新事業活動を行おうとする農業者又はその組織する団体

#### 認定の対象となる事業活動

スマート農業技術の活用と、農産物の新たな生産の方式の導入をセットで行い、農業の生産性を相当程度向上させる事業活動が対象です。

計画認定を受けると、例えば以下の**メリット**があります。

#### 金融上の特例措置

日本政策金融公庫から長期低利の融資

【関東農政局HP】

#### 税制上の特例措置

生産方式革新事業活動に必要な機械等の取得等をした場合に特別償却の適用



#### 補助金の優遇措置

各種事業の審査に当たってのポイント加算等

▲この他のメリットや、制度の相談窓口はこちら

## 「情報発信者の部屋」ホームページの紹介

静岡県拠点では、SNSなどを活用して、情報発信を行う農業者を紹介しています。

農業者の方が情報発信を行うことによって、多くの方に生産の過程でのこだわりや苦勞などを伝えることができるほか、自身の農産物や加工品の魅力を広めていくこともできます。

本ホームページでは、各農業者が情報発信を行う際の工夫や、これから情報発信を行う際のアドバイス等をまとめていますので、ぜひご覧ください。

【静岡県拠点HP】



SNSでエ夫していることやアドバイスなど先輩からの役立つ知識がたくさん！

### 発信者が県内各地で活躍中！



## 長峰製茶株式会社(焼津市)

### お茶の未来をつくる、世界へ届ける



#### 新たな後発酵茶づくりへ

長峰製茶株式会社では、緑茶に加え、後発酵茶を製造、販売しています。後発酵茶は、温度管理された環境で生葉を3～4週間ほど乳酸発酵させることで、爽やかな酸味と柑橘系の香りを生み出します。発酵を終えた茶葉は、太陽熱を利用したビニールハウス内で天日乾燥されます。乳酸発酵茶とその粉末茶は抹茶とともに、アメリカやカナダを中心に海外でも高い関心を得ており、近年は輸出量も徐々に増加しています。現在販売している乳酸発酵茶を更に進化させるため、農研機構と共同で新たな商品開発に取り組んでいます。



▲北米で好評の乳酸発酵の茶葉と粉末茶

#### スパークリングティーの海外展開への挑戦

現在、国内で販売しているスパークリングティーは、今後海外展開も視野に入れ、輸出の検討を進めています。このため、国内外の商談会・展示会にも積極的に参加し、商品のPRに努めています。



▲輸出も検討中のスパークリングティー。ノンカロリー・ノンアルコールで体にやさしい

本年3月24・25日にラスベガスで行われたWorld Tea Expo 2026にも出展し、スパークリングティーが無糖のノンアルコール飲料として現地のバー・レストラン、ホテル関係者等から高い評価をいただきました。ニューヨーク、ロサンゼルスからの受注もあり、海外展開への手応えを感じています。将来的にはヨーロッパ各国への輸出も視野に入れ、日々研究を積み重ねています。

静岡県拠点では、新規就農者の取組事例を紹介しています。

【静岡県拠点HP】  
新規就農者の部屋▶

今年3月に、5件追加!



## Show Farm 渡邊将己さん(掛川市)

### 経験とご縁がつないだ独立就農

### 新規就農

#### 事業を継承し独立就農

農業系の大学院を卒業後、一般企業へ就職しましたが、農業経営への思いが再び強まり、学生時代から縁のあった農業法人で温室メロン栽培に従事しました。さらに、独立を見据えて肥料会社の農業生産部門へ移り、トマトの栽培・販売や経営を幅広く学びました。こうした経験を積み、2022年には肥料会社の事業を継承する形で独立就農を果たしました。就農の際は、「新規就農総合対策」のうち「経営発展支援事業」と「経営開始資金」、日本政策金融公庫の「青年等就農資金」を活用しました。

#### こだわりの栽培方法

土を使わない養液栽培で、ヤシ殻入りの小さな栽培ポットを使う「少量培地耕」を導入し、果実の締まりを良くした高品質なトマトを生産しています。また、害虫コナジラミの対策として天敵のタバコカスミカメを導入し、農薬の使用量を減らす取組も行っています。今後は、夏場の高温に耐える栽培方法を確立し、トマトが少ない時期でも安定出荷できるよう通年生産を目指しています。将来的には、周囲にある空きハウスも活用し、産地全体の活性化に取り組んでいきたいと考えています。



農林水産省では、新規就農者への資金面の支援内容を拡充しました。

■ 新規就農者チャレンジ事業(新規)を創設  
65歳未満の新規就農者を対象に、農業用機械や施設の整備等を支援【7年度補正】

■ 就農準備金・経営開始資金の単価  
年間150万円 → 165万円に拡充【8年度当初】

など

【農林水産省HP】

詳細はこちら



## 「みえるらべる」の取組

農林水産省では、「みどりの食料システム戦略」に基づき、持続可能な食料システムを構築するため、食料システム全体での環境負荷低減の取組や国民理解の醸成に向けて、環境負荷低減の取組の「見える化」を推進しています。



## JAみっかび

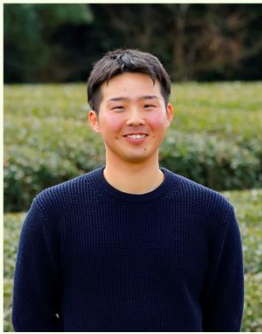
JAみっかびの三ヶ日みかんは、「ただ、甘いだけじゃない」「コクがある」高品質で静岡県を代表するみかんの一つで、2015年には生鮮食品として日本初の機能性表示食品に登録されました。今般の「みえるらべる」の申請については、既存データを活用できたことに加え、静岡県拠点にも協力をいただいたこともあり、手続きは簡単な印象でした。「みえるらべる」は、直売所にポップを設置して表示しました。

星の数で可視化することにより、環境負荷低減の取組をアピールでき、外部への説明がしやすいと感じています。また、生産者部会からも賛同が得られ、環境負荷低減に関心のある消費者に対して、新たな付加価値として「みえるらべる」に取り組んでいく意味があると考えています。



▲ポップ掲示した「みえるらべる」(上)  
シーズン最後を飾る貯蔵みかん「誉れ」(下)

## 有限会社 丸新柴本製茶 植田大さん



▲代表取締役の植田さん ▲環境負荷低減の「みえるらべる」を貼付したお茶

丸新柴本製茶では、農薬や化学肥料の使用を抑えた栽培や、土づくりを重視した茶園管理に取り組んできました。「みえるらべる」は環境に配慮した取組を客観的に示す手段の一つとして、導入しました。消費者からは、商品にラベルがあることで「環境に配慮していることが分かりやすく安心できる」「子どもに飲ませたいお茶として選びやすい」と、特に健康や環境に関心の高いお客様から高評価をいただいています。

今後は、環境負荷低減の取組を更に深化させて、環境配慮型農業の意義を発信し続けることで、お客様から「選ばれる理由のあるお茶づくり」を進めるとともに、地域の農業全体の価値向上に努めていきます。

## 御殿場・小山エコ栽培出荷組合組合長 遠藤博雄 さん

御殿場・小山エコ栽培出荷組合の組合長 遠藤さんは、化学肥料や農薬の使用を低減させることで、環境に配慮したエコ栽培米の生産を行っています。そうした努力をより分かりやすく消費者に伝えるため、「みえるらべる」を導入しました。

収穫したコシヒカリ約170俵のうち30俵分の精米に「みえるらべる」を貼付し、地元JAの直売所で販売しました。通常のコシヒカリの販売価格より若干高めの価格設定をしましたが、売れ行きは好調でした。今後、出荷組合の組合員にも「見える化」への登録をすすめ、組合として取り組むことも検討しています。



▲組合長の遠藤さん



▲「みえるらべる」を貼ったコシヒカリ

## Check! 「みえるらべる」に取り組んでみませんか? ~取得の流れ~

温室効果ガス  
簡易算定シートを入手

栽培データ等  
の入力

農林水産省への報告で  
登録番号が付与されます

ラベル表示  
開始

【農林水産省HP】

詳細はこちら



簡易算定シートは、農林水産省HPに利用者登録することで、誰でも無料で利用することができます。算定の結果、等級が付けば、農林水産省に報告して「みえるらべる」を表示できます。なお、営農管理アプリを使用する場合は、利用登録が不要となります。

# 商業高校の取組を紹介します!

商業高校の生徒は、商業の知識を生かし、アイデアを商品として形にするなど、様々な活躍を見せています。

## 静岡県立 静岡商業高等学校 ビジネス探究部

### 仕入れたお茶に新たな価値を付けて販売

静岡商業高等学校ビジネス探究部では、茶業の振興を目的にお茶を業者から仕入れ、独自に付加価値を付けて様々なイベントで販売しています。

生徒たちは、茶関係者との関わり合いを購入者に伝える2ページの手紙を、ティーバッグに添えて販売する「茶紙（てがみ）」を生み出したほか、粉末茶と相性の良い食品が一目で分かるチャート表を用意し、販売に生かしました。



▲ 成果物と一緒に集合写真。手作りの被り物は、イベント販売の際に身につけます。

▶ 食品と粉末茶の相性を調べて作成したチャート表。



また、小売店では、「失敗しない買い物」をテーマにボードの作成・掲示や商品配置に協力し、売上アップに貢献しました。ビジネス探究部は、今後も商業高校でのビジネスの学びを生かして、商品価値を高める方法を考えていきます。

## 静岡県立 沼津商業高等学校 地域活性部

### 沼津茶を活用したスイーツ開発で地域に貢献

沼津商業高等学校地域活性部では、静岡県の荒茶生産量が全国1位から2位となったことにショックを受け、地域の農業について調べる中で、生産者の高齢化や後継者不足などの課題を知りました。そこで、若い頃から親しんできた沼津茶で地域に貢献しようと考え、「静岡茶を再び日本一に」との思いからスイーツづくりに挑戦しました。

生徒たちは、沼津茶を使った生地とミルク餡を組み合わせた和洋スイーツ「しずっ娘。」を、製菓会社と協力して開発・販売しました。商品開発では、訪日客を意識したパッケージデザインや生地の厚みにこだわり、幅広い層に選ばれる工夫を重ねました。こうした取組を「全国高等学校フードグランプリ」に応募したところ、日本一となる文部科学大臣賞（大賞）とプレゼンテーション優秀賞をダブル受賞しました。

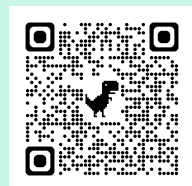
地域活性部は、今後も部活動を通じて地域の課題解決に取り組むとともに、「高校生ビジネスプラン・グランプリ」などの様々な大会に挑戦していきます。



▲ 販促時の集合写真

◀ 製菓会社とともに開発した「しずっ娘。」

【農林水産省HP】



## 第3回みどり学生チャレンジに参加してみませんか？

今年度も高校の部、大学・専門学校の部の2部門で参加を募集しています！みどりの食料システムに基づいた取組を実践し、ポスターにまとめていただきます。地方ブロックでの大会のほか、全国大会も行われます。



農林水産省では、学生の皆さんが行う「みどりの食料システム戦略」に基づいた取組を募集し、表彰しています。

今回の関東ブロック大会では、多くのチームが参加し、多様な視点から持続可能な農業への取組が行われました。ここでは、見事入賞を果たしたチームをご紹介します。

## みどりの食料システム戦略って？

農産物などの生産に使う資材・エネルギーの調達から生産、加工・流通・消費までの取組を、環境に優しいものにしていくとする戦略です。



## グランプリ 高校の部

静岡県立磐田農業高等学校

（食と農の魅力旅プロジェクトチーム）

「伝える、つなげる、適正価格を考える「食と農の魅力旅」 適正価格が持続可能な農業を創る」

磐田市の魅力的な農や食へ案内する観光ツアーの企画・運営を行い、消費者と生産者の距離を縮め、持続可能な農業への関心喚起に挑戦しました。



## 準グランプリ 高校の部

静岡県立田方農業高等学校（生産科学科）

「ワサビの辛みで地球を救う！アリルイソチオシアネートを活用した作物栽培」

ワサビの辛み成分による雑草発芽抑制効果を活用し、農薬や化学肥料の削減につながる栽培方法を探究しました。



## 準グランプリ 大学の部

静岡大学（静岡大学お茶サークル【一煎】）

「放棄茶園の復興と販路拡大」

放棄茶園の通路を確保するなど整園を行うとともに、オリジナルブレンドティーといった新商品を開発することで、お茶の新たな可能性を広げました。



## 準グランプリ 大学の部

常葉大学（大豆プロジェクト）

「大豆を活かした地域資源循環の創出」

耕作放棄地で大豆の無農薬栽培を行いました。また、食品ロス削減と、若年層への大豆食品の浸透を目指して「おからの出ない豆腐」などの商品を開発し、販売しました。



## 準グランプリ 大学の部

静岡県立農林環境専門職大学

「低利用柑橘類を活用した養鶏飼料の開発」

温州ミカンの加工時に廃棄される外皮を活用した養鶏飼料の開発を進めてきました。今年は餌の設計を改良し、産卵率低下を防ぐことができました。

【関東農政局HP】



各校の取組の詳細はこちら



静岡県の若い力が、環境に優しい未来の農業を力強く支えています。

# こどもたちの食生活を支える こども食堂

こども食堂は、こどもが一人でも利用できる無料または低額の食堂で、地域交流やこどもの居場所づくりの役割も果たしています。ここでは、県内でこどもたちの成長を支える2つのこども食堂を紹介します。

## 自身が支えられた経験を次世代に恩返し COCON家（長泉町） 門池ドラゴンこども食堂（沼津市）

2軒のこども食堂の代表を務める杉山さんは、自らが子育てで苦労していた時に、様々な人に支えられてきました。その後、子育てが一段落し、次世代に恩返しをしたいとの思いが「こども食堂」を始めるきっかけとなりました。

平成28年から、沼津市内で「大岡こども食堂」を開設し、その後「門池ドラゴンこども食堂」へと変遷しながら活動を継続しています。毎月1回開催しているイベント型のこども食堂で、料金は無料、予約なしで誰でも利用できます。



▲わくわくチケットで、こどもに食事を無料提供（左）  
昭和のレトロ感が漂う駄菓子コーナー（右）



▲COCON家は下土狩駅から徒歩5分、こどもたちの通学の道すがらにある

長泉町にある「COCON家（ココン家）」は、令和5年11月に開設しました。月曜から土曜までオープンしている常設型のこども食堂です。大人が1枚当たり500円を出資するわくわくチケットを導入しており、こどもがガチャを引いて、無料でごはんを食べることができます。

こども食堂は、食材を提供して下さる周囲の人々の協力や、家族の理解によって、運営を継続できています。杉山さんは今後も、こども食堂を、こどもたちが集い、自由に遊べる場所、心の悩みを打ち明けられることのできる第3の居場所にしていきたいと考えています。

## 社員と一緒に長く続けられる社会貢献をしたい 浜松ホテル こども食堂（浜松市）

浜松ホテルでは、毎日朝食バイキングを提供するホテルの特性を活かし、令和7年5月から、毎月こども食堂を開催しています。社員に大きな負担を掛けないよう、比較的空いているチェックアウト後からチェックイン前の時間を活用しています。

食事はバイキング形式で定員は40名、応募者多数の際は抽選です。料金は、中学生までのこどもは無料で、大人には300円の寄付をお願いしています。



▲ホテルのレストランがこども食堂の場になる



こども食堂開催後には、毎回アンケートを実施し、料理の量やメニュー、運営方法を改善しています。既存のバイキング設備ではこどもたちの手が届きにくかったため、市の助成金を活用して、こどもが取りやすい高さのフードオーマーマーも導入しました。

浜松ホテルは今後、他のホテルや旅館に、取組が広がる様に積極的に声を掛け、市内や県内のどこかのホテルで、こども食堂が毎日開催される未来を作りたいと考えています。

### Check !

農林水産省では、ごはん食を通じた食育の推進を図るため、こども食堂・こども宅食等に政府備蓄米を無償交付しています。



食事又は食材の提供を行う場所で、又はこれらを直接受け取る者に対して、こどもにごはん食の魅力などを伝える食育の取組を行うことが交付条件です。（食事食材提供団体ごとに、1交付申請につき600kgまで無償交付）



▲【農林水産省HP】  
詳細な要件等はこちら

# 統計の部屋

## 「“白書の物差し”で見る農業の現状（静岡県）」の紹介

「令和6年度食料・農業・農村白書」の項目別に、全国と静岡県のグラフを比較できる「“白書の物差し”で見る農業の現状（静岡県）」を、静岡県拠点HPに掲載しました。

静岡県農業の特徴や課題を客観的に見ることができます。ぜひご覧ください。

【静岡県拠点HP】



### 目次

目次 グラフを作成した項目

#### 3 女性活躍の推進

P2 女性の基幹的農業従事者数

#### 第2節 我が国における食料の供給

P3 食料自給率

P4 主食用米と生産量と需要量（水稲収穫量）

P5 飼料用米の生産量と需要量

### “白書の物差し”で見る農業の現状（静岡県）

#### 第3節 担い手の育成・確保と多様化

P21 農業経営体数  
P22 基幹的農業従事者数と平均年齢  
P23 年齢別の基幹的農業従事者数  
P24 新規就農者  
P25 農家数と土地持ち非農家数

#### 第4節 消費者の需要に即した農業

P26 指定野菜の加工・業務用  
P28 品目別の果実産出額  
P29 水田における作付状況  
P30 米の収穫量及び集荷数量  
P31 個別経営体における生産額  
P32 収入保険の加入経営体数

#### 第6節 経営意欲のある農業者による農業経営の展開

P33 法人経営体数

#### 第7節 女性農業者・高齢農業者

P34 65歳以上の基幹的農業従事者数

#### 第4節 食料消費の動向と食・農の連携

P36 緑茶の1世帯当たりの年間消費量

#### 第6節 中山間地域等の振興

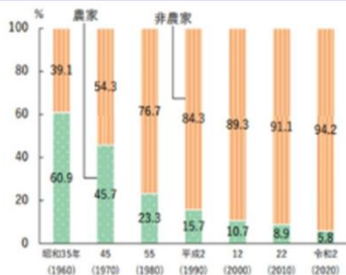
P37 農業集落の総戸数に占める農家の割合  
P38 中山間地域の主要指標  
P39 農業地域類型別の経営体数

### 第6節 中山間地域等の振興

#### 全国

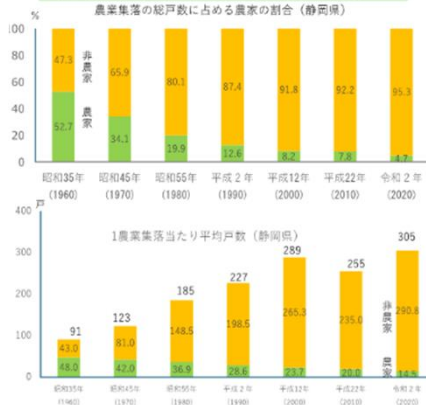
（農業集落の小規模化や混住化が進行）  
農業集落の総戸数に占める農家の割合を見ると、令和2(2020)年は5.8%にまで低下しており、混住化が大きく進んでいる様子がうかがわれます。

図表6-1-6 農業集落の総戸数に占める農家の割合



#### 静岡県

農家比率4.7%—混住化が進み、農の顔が薄まる  
（農業集落の農家の割合は4.7%）  
農業集落の総戸数に占める農家の割合が、半数を超えていた昭和35(1960)年から令和2(2020)年には4.7%まで割合が低下した。



白書の項目で静岡県と全国データを比べられる

## 令和7年産茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

農林水産省では、令和8年2月、「令和7年産茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）」を公表しました。このうち、静岡県の調査結果の概要と、最近の動きをお知らせします。

【農林水産省HP】



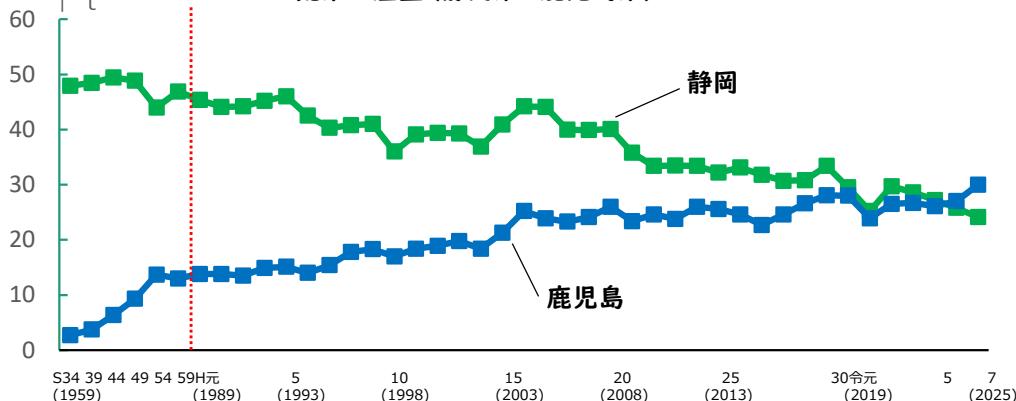
### 摘採実面積

静岡県の摘採実面積は1万500haで、前年産に比べ、1,100ha（9%）減少しました。

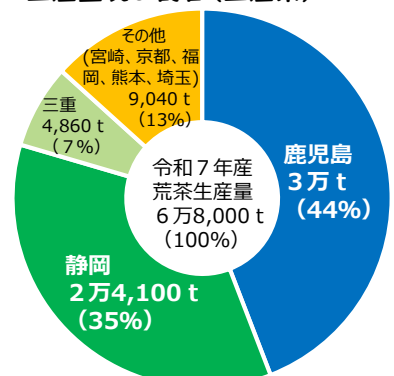
### 生葉収穫量及び荒茶生産量

静岡県の生葉収穫量は10万8,200t、荒茶生産量は、2万4,100tで、前年産に比べ、それぞれ1万1,300t（9%）、1,700t（7%）減少しました。荒茶生産量（年間計）は、前年産同様、鹿児島県が1位、静岡県が2位となりました。

### 荒茶生産量（静岡県と鹿児島県）



### 令和7年産茶の府県別荒茶生産量及び割合（主産県）



# 「内房たけのこ」(富士宮市 内房地区)



内房地区のタケノコ栽培は、江戸時代末期に伊豆韮山代官所の役人が、防災と産物奨励のため伊豆から孟宗竹の親竹を移植したのが始まりと伝わります(芝川町誌より)。

赤土土壤に恵まれた同地区では、えぐみが少なく食感の良いタケノコが育ちます。内房筍生産組合の生産者は、年数が経った竹を伐採し、日光を取り入れて地温を上げることでタケノコの発生を促進し、配合肥料を施すなどして良質なタケノコを生産しています。

内房筍生産組合の「内房たけのこ」は、“頂(いただき)しぞおか食セレクション”の認定農産物になっています。

富士宮市内房地区では、稲瀬川沿いの桜が咲く4月には「内房たけのこ・桜まつり」が行われます。採りたての内房たけのこ販売も人気です。



写真提供:JAふじ伊豆

関東農政局 静岡県拠点 〒420-8618 静岡市葵区東草深町7番18号

## お問い合わせ

地方参事官室 054-246-6121  
統計担当 054-246-0612

## アクセス

JR静岡駅より  
徒歩:約25分(約1.8km)  
バス:JR静岡駅北口10番のりば  
県立総合病院方面「アイセル21」下車



## GREEN×EXPO 2027 ～幸せを創る明日の風景～

2027年3月19日(金)から9月26日(日)まで、GREEN×EXPO 2027が神奈川県横浜市で開催されます。日本における最上位クラス(AI)の開催は1990年大阪花の万博以来、37年ぶりです。

1,000万株の花と緑が世界中から集結して「幸せを創る明日の風景」を創り出し、様々な展示や体験を通じてグリーン社会や自然との共生について考えるきっかけをもたらします。ご期待ください。



©Expo2027

2027年国際園芸博覧会  
公式マスコットキャラクター  
トウクントウク

詳細はこちら



チケットサイト

